



# あかね

令和2年1月発行

独立行政法人国立病院機構  
東近江総合医療センター  
広報委員会

7月から当院は敷地内全面禁煙になりました。

## 婦人科のがん予防

産婦人科 西村 宙起

高齢社会に伴い、日本人の2人に1人が生涯にがんを経験するといわれています。がんの治療も日々進歩していますが、もし少しでも避けることができるのであれば避けたいものです。がんの全ての原因を調べたり除去したりすることは現在の医学ではできませんが、疫学研究等により婦人科がんにおいてもリスク因子（の一部）であろう要因が挙げられています。

### ①子宮頸癌

子宮頸癌の原因の多くはヒトパピローマウイルス（HPV）であるということがほぼ確実です。HPVは皮膚等の外環境に存在しており、性的な接触で感染することが多いようです。健診で異常のない方へのHPV検査は保険の適応外ですので、早期発見のためには定期的な子宮頸癌検診が望まれます。日本では若年の方の子宮頸癌がいまだに多く、お若い方でも注意して定期健診を受けるようになさって下さい。また、喫煙も子宮頸癌のリスク因子とされています。

### ②子宮体癌

子宮体癌の多くは過剰な女性ホルモン（エストロゲン）への暴露が原因といわれています。

リスク因子としては、閉経後のホルモン補充療法（月経がある間はリスクが低減されます）、肥満（若年者でも）、そして乳癌治療などに使用されるタモキシフェンなどが代表的です。

### ③卵巣癌

卵巣癌についてはまだ原因がはっきりしていないものが多いですが、リスク因子と考えられているものには喫煙、アスベスト、閉経後エストロゲン療法などが挙げられます。

喫煙は婦人科のがんにとってもリスク因子となり得るのです。少しでもがんのリスクを下げられるように、少しずつでも生活習慣を見直してみたいかがでしょうか。

